

令和 3 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名： グループホーム 若園荘 2階ユニット

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100287		
法人名	医療法人 帰厚堂		
事業所名	グループホーム 若園荘 2階ユニット		
所在地	〒020-0886 盛岡市 若園荘8-11		
自己評価作成日	令和3年12月5日	評価結果市町村受理日	令和4年2月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

盛岡市の中心、中津川に架かる上の橋から南に400メートル程の所に位置し、盛岡市内循環バス「でんでんむし」の停留所の正面に事業所があります。幼稚園、小学校、高等学校、武道館の社会資源にも恵まれた環境です。地域の特性を活かしながら、社会との関わりをもち、利用者一人ひとりが生き活きたした生活が送れるように努めています。町内会の一員として、地域の行事や集まりにも参加して皆様と交流を図らせて頂いています。子供会の資源回収や、町内会の朝掃除、道路沿いの植木の水やり、文化祭へ作品提供など、利用者様と共に参加させて頂いております。同法人の医療機関と連携を図りながら、防災意識を高め、利用者の健康管理を行い、安心して生活ができるよう支援しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

学校などの文教施設が集まる市街地に立地した3階建ての事業所は、1階が事務室、2階と3階で2ユニットのグループホームになっている。医療法人の基本理念「愛と誠の精神」を基本とする事業所の理念は、3項目の独自の運営方針を定め、職員は意識を持ち介護に当たっている。法人内の医師が定期的に訪問診療に訪れ、常勤看護師が利用者の健康全般を管理し連携も充実している。食事面では高齢者に対する栄養ケアを目指し、法人の管理栄養士の指導を受け、栄養バランスと食べやすさなどにつなげている。コロナ禍で地域活動の難しい状況の中、町内の朝清掃活動や子ども会の資源回収にも参加し、交流を図りながら、「地域に支えられた事業所」を目指し取り組みを行っている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和3年12月22日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 若園荘 2階ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝のミーティングで理念を唱和し、職員の一人一人が理念に沿ったケアを実践できるよう、意識づけしている。各職員に対し実践の確認も行っている。	理念を基に、毎年度、目標の振り返りと実践の確認を行い、行動目標を作成している。朝のミーティングで理念を唱和すると共に、勉強会を開催しながら、利用者一人一人に寄り添った支援を意識しながら実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内朝清掃(4月～11月)の参加や、子ども会の資源回収に参加している。新型コロナの為参加には限りがあるが、出来る限り町内行事なども参加している。	コロナ禍で活動が制限されている中、町内会の朝清掃活動や、子供会の資源回収に参加し、交流を図っている。近隣のコンビニ職員に避難訓練へ参加して頂く等、地域へ協力要請をしながら、繋がりを深めている。コロナ禍の収束の際には、以前のような幼稚園、小学校、高校との交流再開を利用者は心待ちにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人広報は年2回の発行となっている。運営推進会議等でも認知症の理解が得られる様な話題提供を施設の現状に合わせて話題提供している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナで今年の運営推進会議は1回のみで開催であった。他は2ヶ月に1回、書面で施設の入居状況や活動内容の報告を行った。	コロナ禍のため書面開催が続いていたが、11月には対面での会議を行い、面会制限の緩和、ワクチン接種などの質問や地域包括支援センターから高齢者虐待防止講座の紹介、国際ロマンス詐欺の注意喚起などの話があった。書面開催時にも、委員から意見や要望を伺うようにし、サービスの向上に活かすと共に、議事録は全職員に回覧し情報の共有を図ってきている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険の改正時、届け出の問い合わせのついてアドバイスを頂いている。地域連携会議なども今年度はアンケート等協力し参加している。	地域包括支援センターには、運営推進会議の席で直接意見や指導をいただいている。市の介護保険課には直接出向き、事故報告、運営推進会議や外部評価の報告書を提出し、また、家族の依頼により要介護認定申請のアドバイスをいただく事もあり、協力関係は築かれている。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 若園荘 2階ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	権利擁護の研修を通して身体拘束が高齢者に及ぼす影響を学んでいる。また業務会議などでスピーチロックなどの研修を行い職員間で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	3ヵ月毎に身体拘束廃止委員会をユニットリーダーを含めた5名の委員で開催している。前はスピーチロックやセンサー使用の問題点を取り上げ、行動抑制、権利侵害などについて話し合った。職員はスピーチロックの動画ビデオを活用した勉強会を通じ、クッション言葉の使い方を学んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の意識統一を図り、虐待の早期発見と防止に努めている。職員間でも利用者様の日頃の変化に気を配っている。内部研修で勉強している。スピーチロックについて配慮している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の内部研修を予定している。実例を挙げて職員に理解しやすいよう工夫をしている。(成年後見制度など)		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、同意を得られるように時間をかけて説明している。疑問については納得できるよう説明し、法改定に関しては文章等でお知らせし、同意書を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様の来訪時、声をかけて意見・要望を聞き出せるような場を作っている。意見の内容はミーティングなどで報告し職員間で共有している。	通院介助や面会時、電話連絡の際に意見要望を伺うようにしている。2ヵ月に1回、居室担当者が利用者の身体面、生活面、精神面の項目毎に様子を記入した書面を送付し、その際にも意見や要望を伺っている。意見内容は、各ユニットの申し送りノートやケアプランに盛り込み、職員間で共有している。「面会したい」の要望を受け、面会場所や時間の制限を行いながら進めている。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 若園荘 2階ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員が意見を提案出せるような雰囲気づくりを心掛けている。行事の立案などは職員のアイディアを引き出している。反省や振り返りも行っている。	管理者は、職員が何でも話せる雰囲気づくりを心掛けている。業務に関すること、行事などの意見や提案、アイデアを大切にしている。今年度の10月から法人の管理栄養士による献立作成(栄養価計算されたもの)と栄養ケアのアドバイスを受けることにより、食事内容が改善されるなど、職員の要望が、利用者にも有効的に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者と面談の機会を設けて、職場環境についての悩みや意見を聞き出し、法人とも連携を取り改善している。またストレスチェックで個人の健康管理を行っている。個々の意見が反映できるような体制づくりに留意している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新型コロナにて、研修は減ってきているが今年度も認知症実践者研修や基礎研修などに1名参加し、職場に反映できるようにしている。今後はリモート研修にも積極的に参加予定としている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会などのアンケートなど協力している。また同法人内での協力を得ており、サービスの質向上に努めている。リモートによる同法人間の連携会議も実施している。(今年度10月より管理栄養士による管栄養体制加算開始している。)		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の気持ちを大事に、家族様からの情報をもとに生活習慣や趣味、嗜好を尊重し、安心して生活できるような関係・環境づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に家族の思いをくみ取り。本人にとって必要な支援について職員間で情報共有を共有ノートやケアプランなどで行う。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 若園荘 2階ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントと家族の要望、本人の思いを優先した支援と対応に努めている。他サービスについても説明したりしている。同法人とも連携を取っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は日頃のさりげない言葉にも耳を傾け、傾聴するよう心掛けている。出来ることに目を向け、やりがいを感じて頂けるよう、自立支援を意識したケアの実践に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	感染状況により、法人ガイドラインに沿って面会等行っている。また受診なども必要時家族様の協力は得れるよう連絡を取り合っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナの影響にて、電話やガイドラインに沿って面会等行っている。出来る限り本人様の要望に答えられる様工夫している。	コロナ禍の状況で、面会や外出は制限があり慎重にならざるを得ないが、10月にはドライブで小岩井方面に紅葉狩りに出かけてきた。3か月に一度来訪する訪問理容師と馴染みになっている。看護師の提案でリラックス効果のあるアロマセラピーの活用も検討している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を把握し様子観察しながら必要な時は職員が介入しトラブルにならないように対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も転出先との情報交換を行い関連施設訪問などの支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の思いを聞いたり感じたりし気付きは職員間で共有しケアに活かしている。	利用者は、言葉で伝えることができる人は少ないが、ユニット全体では半数位の方が、言葉で思いを伝えることができている。伝えることが難しい方は、仕草、様子を見て対応している。事例として、髪を引っ張り、脱毛が見られた方に帽子を被ってもらい改善した例もある。職員は何気ない動作から、利用者の思いを汲み取ろうと心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、介護支援専門員からの情報から生活歴を把握している。本人との日々の会話からも聞き取りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態変化を観察し、記録に残し必要時カンファレンスを実施している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを開催し、看護・介護・歯科衛生士・管理栄養士からの意見を反映させ、本人・家族の意向と状態の変化に合わせたケアプランを作成している。	入居時に家族から情報や生活歴を伺い、利用者の様子を見ながら暫定プランを作成している。その後、モニタリングを行い、介護記録(ケース記録)に基づきカンファレンスを開催している。計画作成担当者は、居室担当者や看護師、栄養士などの意見と、家族の意向を伺い、プランを作成している。プランは介護記録に綴じられ、職員は変化や気づきを赤ペンで記載し、次のプランに活かしている。3か月経過後の見直しも同様に行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや対応方法等いつもと違う状態や変化を記録している。介護計画に活かせるように情報共有している。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 若園荘 2階ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍にてリモート面会を実施し、家族様と交流している。個人の好みや希望に沿って誕生会を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域貢献として町内の朝清掃、子ども会の資源回収、花壇づくり、花の水やりなどはコロナ禍であっても継続し実施した。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は法人との連携を図り月2回の訪問診療を行っている。入居時家族から了解を得ている。 定期的な往診により日常の健康管理と状態の変化の対応が可能となっている。	入居前からの眼科、皮膚科などのかかりつけ医を継続受診している方もいて、職員、看護師が同行している。法人医療機関による訪問診療はユニット毎に毎月1回あり、内科系で受診している方が多くいる。常勤の看護師が健康観察、服薬などを担当し安心感がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気になったことは若園荘看護師へ相談し診ていただいている。同法人 南昌病院外来や一般病棟の看護師に健康相談もできており、法人間の連携ができています。薬剤師とも連絡を取り合い情報共有ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時は相談員と連絡を取り合い、利用者にとって最善の判断をするよう心掛けている。特に同法人病院からの入院中の利用者の情報は相談員と密に取り合い早期の退院を心がけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	これまで、終末期のケースは無いが、重度化した場合家族様の意向確認後支援を行っている。終末期のあり方については、入居時に指針を示し同意を得ている。また法人や主治医との受け入れ態勢や、ACPなども事前に整備することと心がけている。	入居時に重要事項説明書で看取りをしていない事の説明と、終末期の在り方について指針を説明し、同意を得ている。重度化した場合には、家族の意向を確認した上で、主治医の判断で法人の病院や老健施設を紹介している。ACP(アドバンス・ケア・プランニング)に関してもケアプランに残すなど、事前に整備する事を心がけながら取り組んでいる。	

事業所名 : グループホーム 若園荘 2階ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や防災マニュアルを整備し、荘内勉強会などで急変時の対応など整理している。緊急時対応できるよう各職員実践力を身に付ける努力をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防計画と合わせて防災マニュアルを作成し、定期的な避難訓練を実施している。地域の方々との協力を得る努力をしている。	年2回の避難訓練を計画し、1回は火災を想定した消防訓練を近隣のコンビニ定員の協力を得ながら実施し、2回目は夜間想定として、消防署員立ち合いのもと実施している。また、ハザードマップの想定区域外ではあるが、水害に対するミニ訓練も行っている。消防署員の指適により、のれんを防火性のものに変えたり、前回の外部評価の指摘を受け、3階の利用者がスムーズに避難できるよう、エアーストレッチャーを導入し、職員全員が、使用方法を学び合っている。避難場所は向かい側の小学校が指定されている。	エアーストレッチャーの取り扱い方は導入後間もないので、全職員が取り扱い方を訓練して迅速な避難につなげるように期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の生活歴に合わせた対応や声掛けの配慮をし、人格を尊重したケアに努めている。スピーチロックにならぬように気をつけている。	入室時のノックや声掛けを心掛け、プライバシーを損ねる話し方や、スピーチロックにならないよう、職員同士お互い注意し合いながら対応している。特にトイレ、入浴時は特に羞恥心に気を配っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	職員判断にならぬよう本人の希望を確かめ支援を行っている。自己選択による機会を多く持つよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の時間で声掛けするが何事にも無理せず本人のペースに合わせたサービスの提供を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴後の整容に気をつけている。ヘアカットやカラー個人の希望に合わせて行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日お皿拭きなど役割の提供をしている。食事の準備も時々ではあるが一緒に行っていたり食事の楽しみにつなげている。	法人の栄養管理士が献立を作り、ユニット毎に食材を注文し職員が調理している。栄養士のアドバイスを参考に、見た目が良い調理方法や、盛り付けを念頭に取り組みをしている。利用者は、職員と一緒におやつ作りをしたり、テーブル拭きや下ごしらえ、食事の片づけなど、出来る事を手伝っている。行事食など、時には仕出し屋の弁当で変化をつけ、喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの摂取状況に合わせた食事量・水分量をチェックし、確保できるよう提供している。管理栄養士からのアドバイスも得られるようになっている。食事量が少ない場合補食で対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の声掛けや介助にて口腔ケアを実施している。また週2回歯科衛生士の指導を受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンにあわせてトイレ誘導を行っている。出来るだけご自分の力で行えるよう、排泄の自立支援に努めている。また下肢の筋力向上を目指した訓練を取り入れトイレでの排泄自立支援を行っている。	排泄パターンに合わせ、可能な範囲でトイレでの自力排泄を目指している。2・3階ユニット合わせて5名の方が自力排泄ができ、車椅子の方4名、その他の方は見守りと介助が必要で、支援を行っている。また、夜間のみ2名の方が、家族の了解のもとポータブルトイレを使用し、9名の方が離床センサーとセンサーマットを使用している。自力排泄のため、筋力維持に向け、ラジオ体操や音楽に合わせた足踏みを継続して行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食材を取り入れたり、水分摂取を多くとる工夫をしている。他看護師と連携し、本人へ負担とならない薬服用にて便秘予防に務めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に合わせた支援をしている	可能な限り希望に沿った入浴を前提としている。拒否のある方には興味を引くような声掛けやタイミングをみる等無理強いない支援をしている。	週2～3回の入浴を基本とし、体調に合わせた「ゆったり、ゆっくり」とした入浴を心掛けている。入浴時は職員との会話を楽しみながら、リハビリ感覚で足を動かしたり、職員は全身の健康状態の把握できる場とし、気になる時には看護師から助言を得ている。入浴を渋る方には音楽を流す等、個々に合わせて支援をする。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 若園荘 2階ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜問わずその方の生活習慣に合わせた安眠方法を考え実施している。入眠時リラックス効果のあるアロマを使用する他、明かりや室内環境調整などの工夫も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の目的・副作用は薬剤情報をファイルし情報共有している。また、症状の変化は看護師と連携し確認に努めている。また、誤薬予防にて薬の一包化を行い、氏名もわかりやすい物へと変更をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	誕生会やレクリエーション季節に合わせた行事等を実施している。また個々の好みに合わせた嗜好品をお出ししたり好きな音楽、雑誌を提供している。 洗濯たたみ、食器拭きも個々に合わせ行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍でなかなか外出する機会が減っていたが、周りの状況を考えながら秋の紅葉見学へ行きバスの中からも季節を感じる事が出来た。	春は玄関先のベンチに座り、小学校の桜を見たり、秋はドライブをし紅葉を見学するなど、季節の変化を感じ取って頂けるよう支援している。天気の良い日には、事業所近辺を散歩したり、玄関前のベンチに座り、ひなたぼっこや外気浴をしている。利用者の希望に応じてお墓にも出掛けるなど、事業所としてできるだけの支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍にて感染の予防もあり、以前のように買い物に行ったりは出来ずほとんどが施設管理になっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望がある場合は家族に電話をかけるなどして臨機応変に対応している。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 若園荘 2階ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度・湿度計の完備、季節に合わせた装飾(ホール中心)利用者の作品など掲示している。敬老会では家族様から頂いた言葉を賞状として、本人様へお渡しし掲示も行った。	各ユニットの共用フロアーには、4人掛けのテーブルが3脚とソファ、テレビがあり、利用者は自席で思い思いに過ごしている。外出制限により、フロアーで過ごす時間が多くなり、ストレス解消に向けてラジオ体操、風船バレー、輪投げなど、職員は趣向を凝らしている。季節に合わせて、職員と一緒に作ったクリスマスツリーや輪つなぎを飾ったり、壁面には事業所内で行った運動会の写真が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個人に合わせたテーブル、椅子以外にソファなどもある為自分の好きな場所で過ごしていただいている。 職員とゆっくり話したい時も近くにテーブルと椅子もありその場所も活用している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室入口に暖簾を付け本人が自分の居室と思うように工夫している。また作った作品、家族写真や本人が飾りたいと思っているものを置いている。	ベッド、洗面台、クローゼット、チェストが備え付けられ、室温はエアコンと加湿器で調整されている。利用者は、好みの本や猫の雑誌、ぬいぐるみを持って来て、安心して居心地良く過ごせるよう、工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活するうえで常に利用者を使う場所には障害物を置かない。 今年もコロナ禍である為、感染対策は徹底し安全な環境作りをしている。		